



一般社団法人日本貿易会 小林 栄三 会長（伊藤忠商事会長）

1972年大阪大学基礎工学部卒業、伊藤忠商事入社。
専務取締役、社長を経て2010年4月から会長。
14年5月、日本貿易会の会長に就任。
日本経団連審議会副議長や経済同友会副代表幹事なども務める。
福井県出身。65歳。

「つなぐ世界、むすぶ心」 商社新時代

一般社団法人日本貿易会新会長に 小林 栄三氏（伊藤忠商事会長）就任

商社および貿易団体を中心とする貿易業界団体である
日本貿易会の第11代会長に、伊藤忠商事の小林栄三会長が就任した。
商社各社はグローバルに事業を拡大し続けており、
商社の働きにより、経済成長が著しい新興国の活力を
日本経済の成長につなげることができるのではとの期待が高まっている。
今後の商社業界の展望などについて、小林新会長に聞いた。

新キャッチフレーズ
「つなぐ世界、むすぶ心」

伝統ある日本貿易会の会長を引き受け、責任の重さに身の引き締まる思いです。国土が狭く、天然資源に乏しい日本は、世界から孤立して生きていけない国ではありません。国を開いて世界とつながり、「共生」をより一層進めていくことがなにより大切なの思いから、新会長のキャッチフレーズを「つなぐ世界、むすぶ心」新たな英知で世界に貢献」と決めました。

日本企業の海外展開は、単なる輸出入にとどまらず、現地で生産・販売活動を増やすことが増えています。商社の起源は、江戸時代末期に坂本龍馬が設立した「亀山社中」までさかのぼると言われています。それから現在までの約150年間、商社がダイナミックに活動を持続されてきたのは、世界中で活躍してきた商社パーソンが持つ「英知」を活用して、

商社が持つ英知を活用
政策を積極提言

商社の起源は、江戸時代末期に坂本龍馬が設立した「亀山社中」までさかのぼると言われています。それから現在までの約150年間、商社がダイナミックに活動を持続されてきたのは、世界中で活躍してきた商社パーソンが持つ「英知」を活用して、

事業内容を柔軟に変化させながら前進を続け、商流に大きな付加価値を提供し続けてきたからだと思います。今後、日本が国際競争のなかで後れを取らないよう、また、世界とより良好な関係を維持していただけるよう、商社が世界中から集めた情報や英知を活用していきたい。そのため、政府や関係機関に対して、具体的な制度や枠組み作りなどについて、日本貿易会として積極的に政策を提言したいと考えています。

例えば、今後も拡大が見込まれる世界のインフラ整備に日本企業が参



就任会見で意気込みを語る小林新会長

画・貢献していけるよう、ファイナンスを中心とした国の支援体制を作り、官民が連携していくことが重要です。複雑化する世界情勢
商社の果たす役割
現在の世界はリーダーが不在の状態、非常に複雑化しています。海外展開を進める日本企業は、現地の政治・経済情勢だけでなく、歴史や宗教なども学び、現地の価値観に配慮した付き合い方を心がけることが重要となっています。

今世紀は、前半の50年は米国や中国、アジアが中心の展開となるでしょう。しかし、その後の50年は、かなりの確率でアフリカが大きな存在になると思います。来たるべき「アフリカの時代」に向けて、準備を急ぐ時期に来ていると思います。商社の強みは、世界と日本、企業と企業を「つなぐ力」にあります。グローバルに企業と企業をつなぐことで、小さなビジネスのシース（種）を、大きなビジネスへと育てていく。いわば1+1を3にすることができるとです。商社が、日本と世界をつなぐ懸け橋となり、日本企業が世界に飛躍すれば、日本経済が世界の成長力を取り込んでいくための助けとなるはずです。

日本貿易会賞懸賞論文募集開始!!



懸賞論文10周年。海外からも注目

商社のあり方や、国内外の重要課題などについての論文を募集する「日本貿易会賞懸賞論文」が10周年を迎え、今年度の募集が始まっている。懸賞論文は、年齢や国籍、職業などを一切問わず、誰でも応募できることから、毎年幅広い層からの応募が寄せられているのが特徴だ。日本語のほか、英語でも応募できるとして、海外でも注目が高まっており、最近では、海外からの応募が国内からの応募を大きく上回っている。昨年は、世界49か国から応募があった。今年は、二つのテーマから、好きな方一つを選べる形式となっている。

テーマ

(どちらか選択)

- ① グローバル経済における“商社”のあり方
Future of the "Shosha" in the Global Economy
- ② 2020年の日本が持つ“資源”と世界の発展に果たす役割
Toward Developing Japan's "Resources" by 2020:
A Strategy for Utilizing Them for the Benefit of the World

募集概要

〔応募資格〕
不問(年齢・国籍等を問いません)

〔言語〕
日本語もしくは英語

〔分量〕
10,000字／4,000words以内

応募締切
2014年
9/12(金)

日本貿易会賞懸賞論文審査委員会

委員長：中島厚志 経済産業研究所 理事長

副委員長：安部順一 中央公論新社 取締役雑誌編集主幹 兼 中央公論編集長
伊藤恵子 専修大学経済学部 教授

詳しい募集要項や過去の受賞作については www.jftc.or.jp/discourse/

お問い合わせ

一般社団法人 日本貿易会 広報グループ
〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル6階
TEL: 03-3435-5964 E-mail: kouhou@jftc.or.jp

広報委員会

伊藤忠商事／稲畑産業／岩谷産業／兼松／興和／CBC／JFE商事／住友商事／双日／蝶理／豊田通商／長瀬産業／日鉄住金物産／阪和興業／日立ハイテクノロジーズ／丸紅／三井物産／三菱商事

商社の戦略を議論 出版記念シンポジウム開催

日本貿易会は、商社の最新の取り組みなどをまとめた「日本の成長戦略と商社」（東洋経済新報社、税抜き2400円）の出版を記念し、7月29日に東商ホール（東京都千代田区）でシンポジウムを開く。

出版された本は、戸堂康之・早大教授が監修し、大手商社の調査・研究部門のメンバーなどで作る日本貿易会の特別研究会が執筆、商社が持つ機能や期待される役割など、幅広い視点から商社を分析している。また、資源・エネルギーや農業「クールジャパン」の世界への売り込みなど、分野ごとの最新の取り組みを紹介している。

7月のシンポジウムでは、住友商事の岡素之、相談役による基調講演や、戸堂教授などによるプレゼンテーションが行われる。

「日本の成長戦略と商社」 出版記念シンポジウム

開会挨拶	第2部 パネルディスカッション及びプレゼンテーション
日本貿易会 名誉会長 (三井物産(株)取締役会長) 槍田 松瑩氏	経済産業省貿易経済協力局(予定) 丸紅経済研究所所長 美甘 哲秀氏 早稲田大学教授 戸堂 康之氏
第1部 基調講演	
経済成長における商社の役割(仮題) 住友商事(株)相談役 岡 素之氏	
	【モデレーター】 日本貿易会特別研究会座長 龍本 忠氏

2014年 7月29日(火) 開場 14:30 開会 15:00(17:00終了予定)

会場 東商ホール 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2 定員 600名 ※定員に達し次第、締め切らせていただきます。

お問い合わせ 一般社団法人 日本貿易会企画グループ TEL: 03-3435-5968

シンポジウムの詳細・お申し込みは <http://www.jftc-rg.org/application/event.html>